

# 市民との協働

## ワークショップから見たもの



2011.11.23  
シンポジウム



2011.11.23-  
サテライトオフィス



2011.12.10  
第1回ワークショップ  
【計画条件について理解する】



2012.02.18  
第2回ワークショップ  
【駅前広場の市民利用について考える1】



2012.04.14  
第3回ワークショップ  
【駅前広場の市民利用について考える2】

第4・5回ワークショップ予定  
【市民利用機能を盛り込んだ計画案を考える】

第6回ワークショップ予定  
【市民主体の駅前広場の運営を考える】

- 0番線で実現できそうな事
- 0番線もしくは他で実現できそうな事
- 重点エリアを含む広域で実現可能性を探る事

## 集まる・憩う・交流する・つなぐ・滞留する

- ・ いこいの広場、若い人が集まる場
- ・ お茶をする場、おしゃれなカフェ、ガーデンカフェ
- ・ フリーマーケット、イベントスペース
- ・ 展示ホール
- ・ 2000人収容のコンサートホール
- ・ 多目的ホール、300人収容の多目的ホール
- ・ 会議、ミーティングができるスペース、成果が展示できる場所
- ・ 電車の待ち時間に利用できる場所
- ・ 世代間をつなぐ場所
- ・ 溜まる場所、憩える空間
- ・ 七夕祭りの場、新しいお祭りをつくりたい
- ・ 駅利用者でない人も楽しめる空間
- ・ 屋根付きの大きな広場
- ・ ひと休みするベンチ、タバコ吸う場所
- ・

## 自然・エコロジー・防災

- ・ 省エネルギー、ECO、自然エネルギーの利用
- ・ 災害対応型の駅
- ・ 自然と人工が上手く融合された場所、緑豊かな空間
- ・ 街路樹は広葉樹を植えてもらいたい
- ・ あらゆる活動の拠点となるような森
- ・ 自然素材（県産木材など）を使った空間
- ・ 水辺のある憩いの広場
- ・ 木の種か記念樹を幼稚園児に植樹させるイベント

## 情報・観光・文化

- ・ 山口のすべてがわかる観光案内所
- ・ 物産館
- ・ 地元商品、県内ブランドのショップ、ミュージアムショップ
- ・ インフォメーションの充実
- ・ 文化施設のインフォメーション (YCAMの公演展示紹介)
- ・ 情報、知識が得られる場所 (→図書館の出先)
- ・ 情報センターを設置し、山口の観光拠点にする
- ・ 駅近の商店の情報、ロコミ
- ・ 駅に行けば山口市の最新のことがわかる
- ・ 外郎体験、体験型の場所
- ・ テレビ局、ラジオ局のサテライトスタジオ、情報発信が出来る場
- ・ 山口県7地域の観光情報をローテーションで
- ・ 交通弱者のための鉄道を生かす工夫
- ・ 小郡の駅にコミュニティバス等の公共交通を充実させる
- ・ 駅前の大正通 明治通はぐっとレトロに、駅前広場はハイカラに
- ・
- ・

## 鉄道関係

- ・ SL、転車台を観光資源に
- ・ 鉄道の展示スペース・ギャラリー、鉄道模型展示、SL記念館
- ・ SLと新幹線の融合
- ・ 駅まるごと博物館
- ・ 表口より小郡口のほうが良い
- ・

## くらし・市民活動

- ・ 子育てサポートセンター
- ・ 様々な教室や活動が行えるスタジオ (ガラス張り)
- ・ 地域の人々の活動が見える場所 (お花、陶芸、ダンス、ワークショップ、まちづくり活動など)
- ・ 地域の人が発表出来る場所、展示するスペース
- ・ コミュニティスペース  
駅のまわりの人、駅を利用する人 (通勤や通学)、NPO
- ・ コンビニ、ドラッグストア、地元食材の販売
- ・ 駐車場の充実
- ・ 商店街の活性化
- ・ 小郡の駅にコミュニティバス等の公共交通を充実させる
- ・ 駐輪場、バイク置場の充実
- ・

## その他

- ・ アクティブエイジングの基地 (健康に老いるまち)
- ・ 老人施設、子育て施設
- ・ 医療センター
- ・ 「健康」テーマの施設
- ・ Aゾーンに何をやるかが大切。常に人が集まる施設を…
- ・ 大きな施設 (マンガ館、アニメ館)
- ・ 都銀、都銀ATM
- ・ ロッククライミング
- ・ 複合施設、シネコン等、大きなデパート
- ・

# 計画指針

3つの理念と3つのキーワード

## 山口市・山口市民が実現したいこと

「人と情報と活動が集まるまち」

「水と緑が豊かなまち」

「ここが山口と実感できるまち」

### 「新しい時代のエネルギー」

3.11の東日本大震災以降、日本のエネルギー問題は大きな転換期を迎えました。重点エリアを含む延べ12haに及ぶ開発計画においても、エネルギーに対する視点は不可欠です。エネルギー供給の集約的なコントロールや、それに伴って**建物物熱負荷の平準化**により省エネ化を図ることなどは、当初から全体計画に組み入れることで十分に実現可能です。また、適切なバックアップシステムを確保することにより、**地域の災害時継続性**に備えることも重要です。また、CO2削減を目指して、太陽光発電や小水力発電などによる**再生可能エネルギー利用**や、県内で先例のある木質バイオマスや都市廃熱など**未利用エネルギーの導入**の促進も考えられます。エネルギー自給率の向上を目指し、**環境共生型のあたらしいまちづくり**を目指すことは、重点エリアへの民間誘致にあたって、特徴的なインセンティブとなりえます。

### 「壊さない時代のまちづくり」

改めて環境問題を持ち出すまでもなく、スクラップ&ビルドによる再開発という考え方は現実的ではなくなってきています。全ての建物を壊さずに計画することは不可能ですが、今後の山口におけるまちづくりを考える上でも、既存の道路や川などの線形やまちなみを生かすことを含めて、「**壊さずに再生する**」という手法は有効であると考えます。今回の開発計画にあたって、全ての建物を壊して更地にした上に新しいまちをつくるのではなく、耐震改修など安全面への技術的対応を行った上で、リノベーションやコンバージョンといった手法を活用して、**多様化するライフスタイルや新しい用途に適應できる建物として甦らせる**ことは充分可能と考えています。まちの歴史を断絶することなく、過去の文脈の上に新しいまちなみを負荷していくようなオリジナルなまちづくりが求められています。

### 「多種多様のネットワーク」

**交通やエネルギー**といった目に見えるものだけでなく、**情報やサービス**といったソフト、さらには**緑や水**といった**環境要素**についても**ネットワーク化**していくことで、**居心地のよいまちづくり**を目指します。一つ一つの要素は小さくともそれが連続していくことで大きな流れになっていく、あるいは、部分から全体を見渡すことが可能になる、そうした仕組みを導入することで、既存のまちとも融和しつつ、長期にわたる計画プロセスに融通性を持たせることが可能だと考えています。そのためには、サービスの担い手としての**市民のネットワーク**の構築は不可欠です。物量や目新しさに頼った再開発は年月とともに廃れていきます。そうならないためには、そうした経済的な観点とは異なる観点からの活動やサービスをどれだけ築いておくことができるかにかかっていると思います。

市民を主役とした真の意味での持続可能なまちづくり



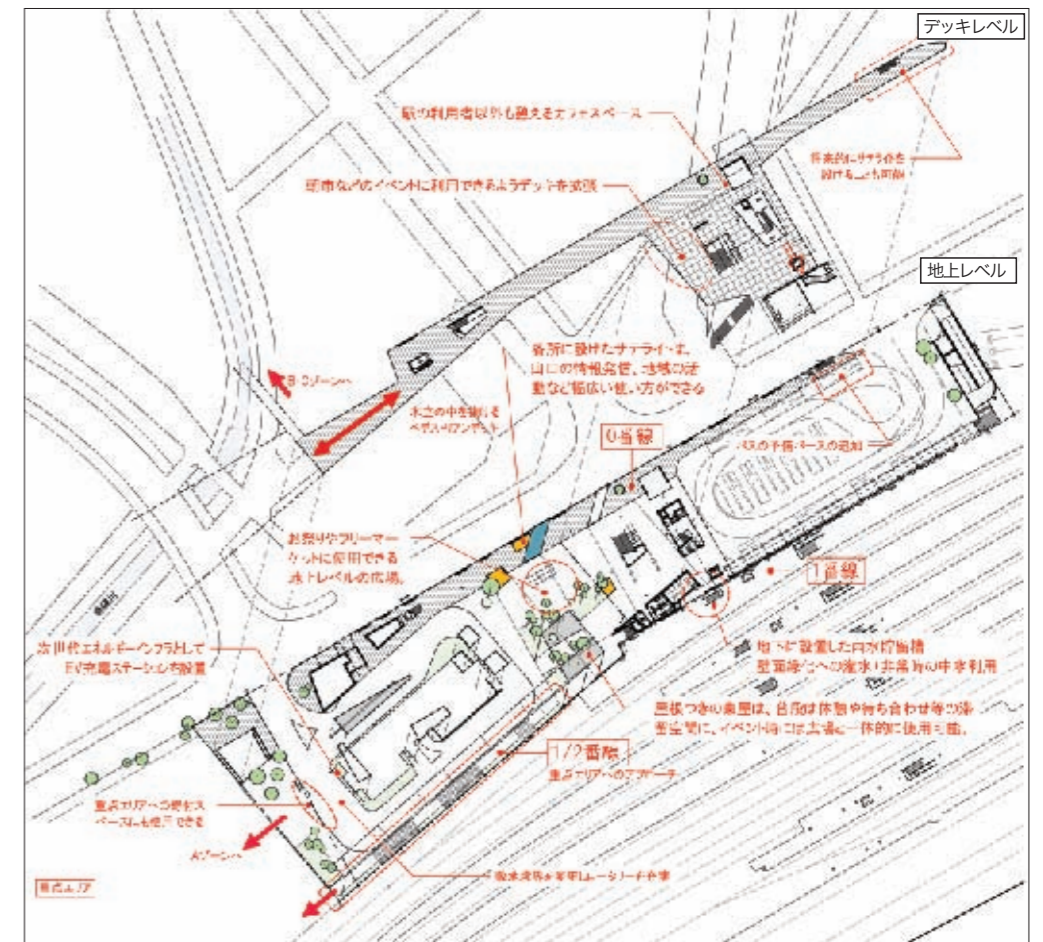
# 新山口駅表口 駅前広場

まちと駅をつなぐ「0番線」

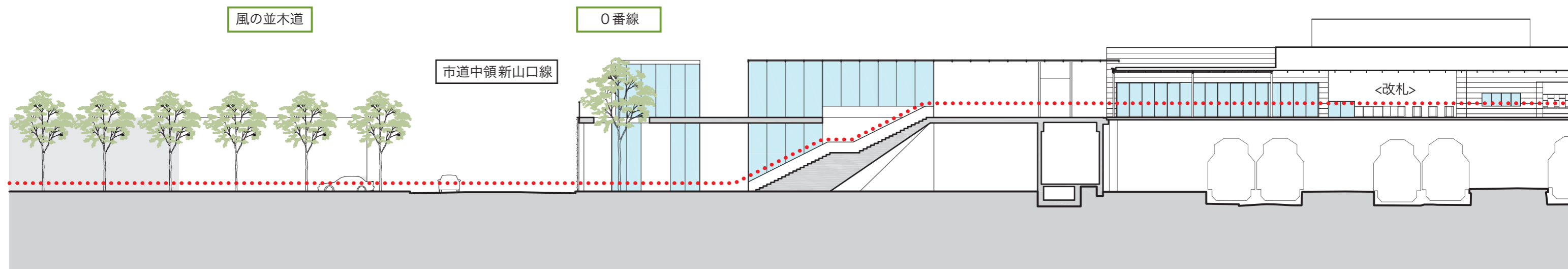
橋上駅舎や南北自由通路の整備など他の事業と合わせて、山口の陸の玄関をつくります。この駅前広場は、駅と重点エリアをつなぐ重要な場所でもあります。「まちと駅をつなぐ0番線」という広場のコンセプトは、駅北側の市街地はもちろん、重点エリアに対しても展開することで、地域全体の交流・活性化を目指します。



重点エリアから見た駅前広場



広場の使い方イメージ

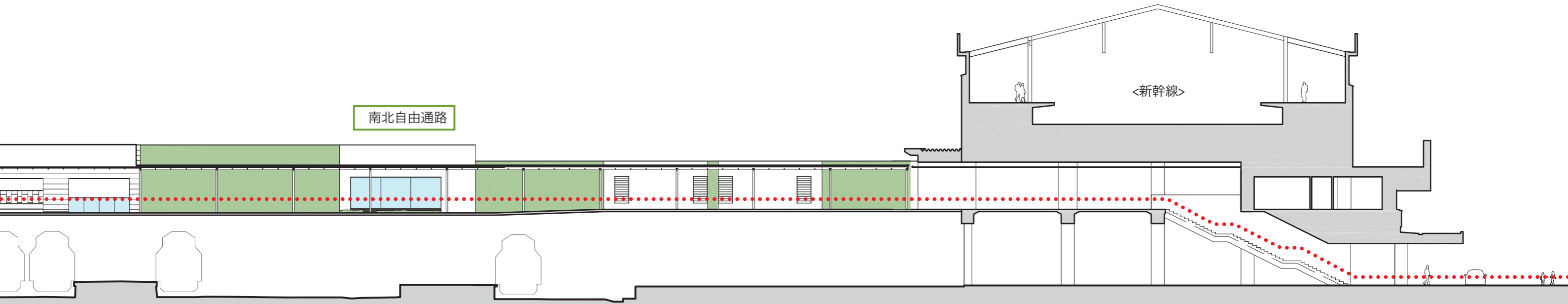
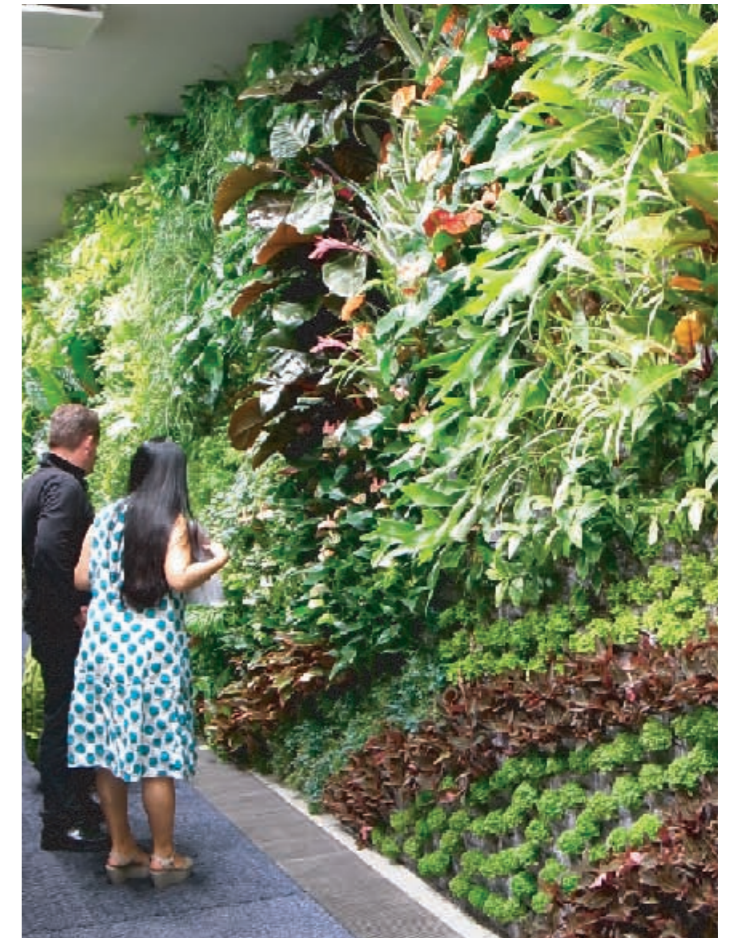
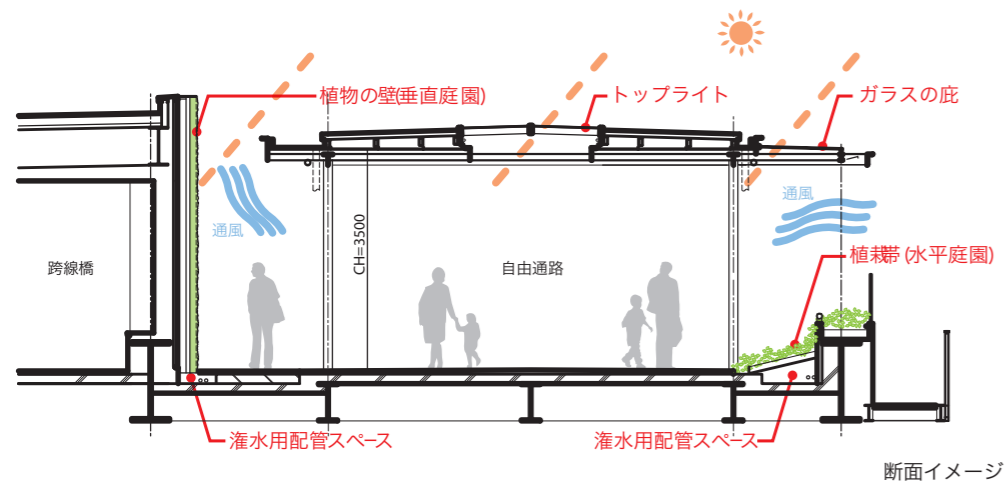




# 新山口駅 南北自由通路

緑と風の自由通路・JRとの協働

南北自由通路ではアートとして植物の壁(垂直の庭園)の設置を計画し、山口の植物園として人々に親しまれる場を目指します。また雨水を水資源として活用する等サステナブルな設備や YCAM と連携したアートプロジェクトや様々なイベントに対応できる装置を設え、賑わいのある空間づくりを目指します。“鉄道のまち”としての地域の誇り・価値や、ターミナル駅としての新山口駅をアピールします。





# 新山口駅新幹線口 駅前広場

表口- 自由通路- 新幹線口 一体となった整備

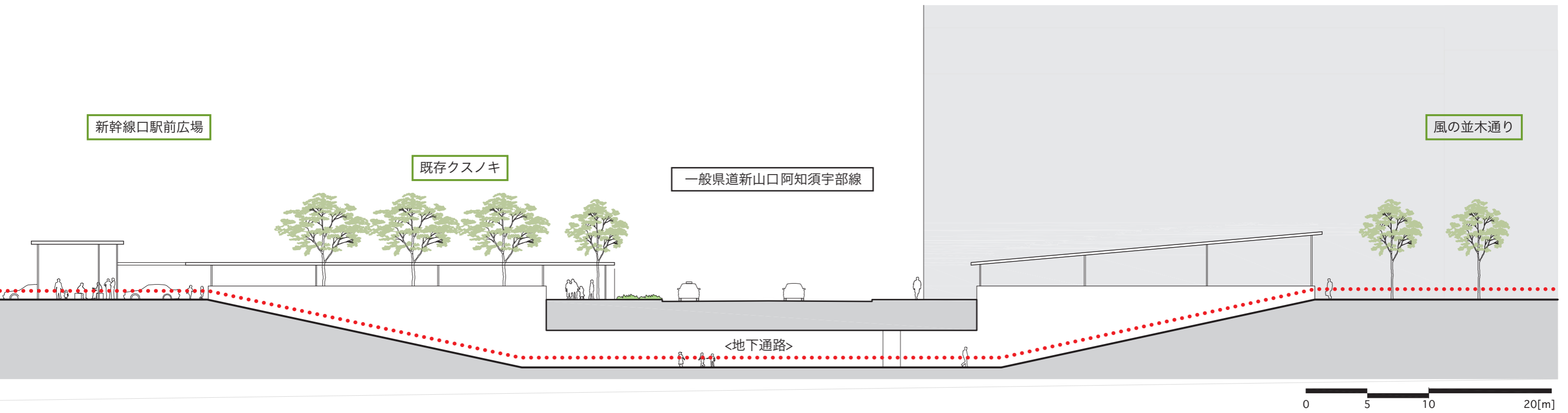
駅舎の橋上化に伴って、駅の南北をつなぐ自由通路が整備されます。これまでの「表口」「新幹線口」といった分断された場としてではなく、連続した場として一体となった整備が必要だと考えます。



既存クスノキ



新幹線口駅前広場の現況





# 水と緑のネットワーク

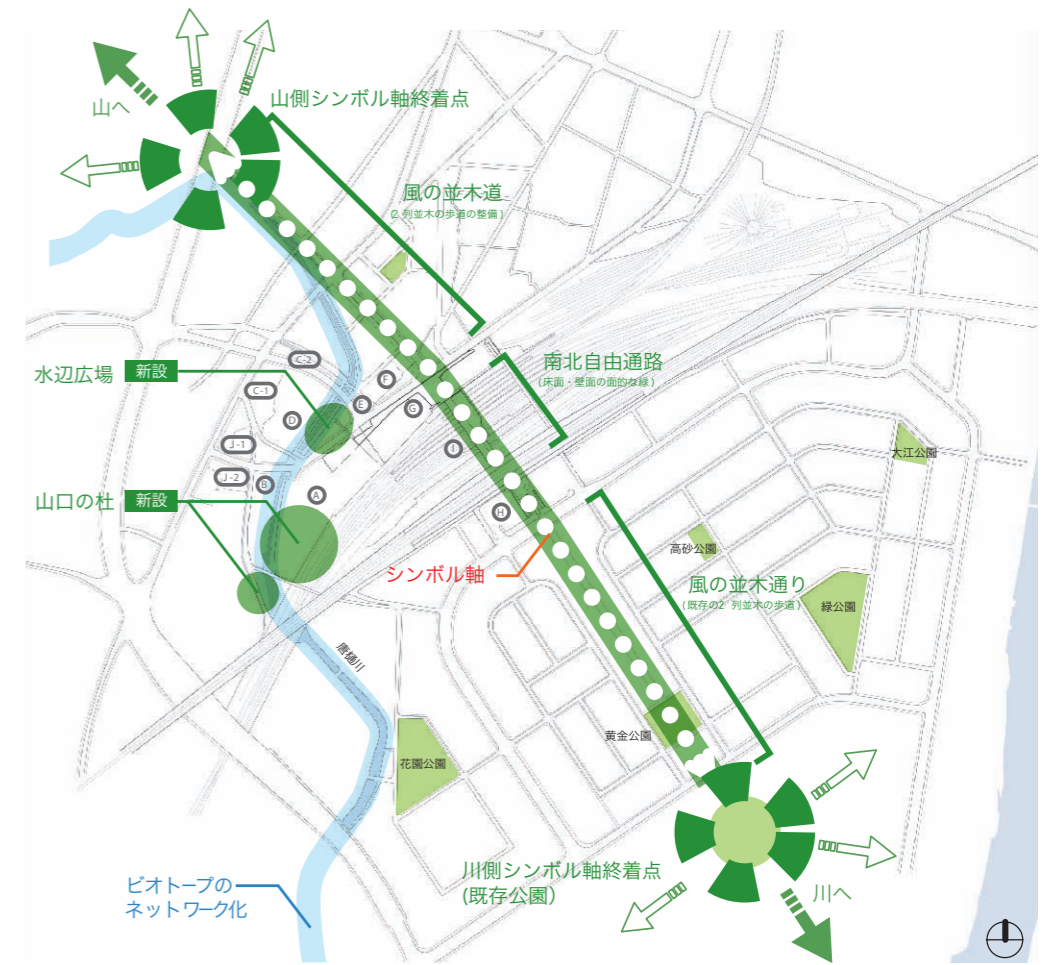
## 唐樋川の再生と緑のシンボル軸

新山口駅周辺は下水改善が計画にされています。これを機に重点エリアを流れる唐樋川も現在のコンクリート護岸から多自然型護岸へと改修し、まちなかの身近に触れ合える水辺として**自然を感じることができる空間**に再生することを目指します。また、駅の北と南をつなぐ緑のシンボル軸を中心に、既存の公園や空地を利用しながら緑の空間をつくり、**緑あふれるまち**をつくっていきます。

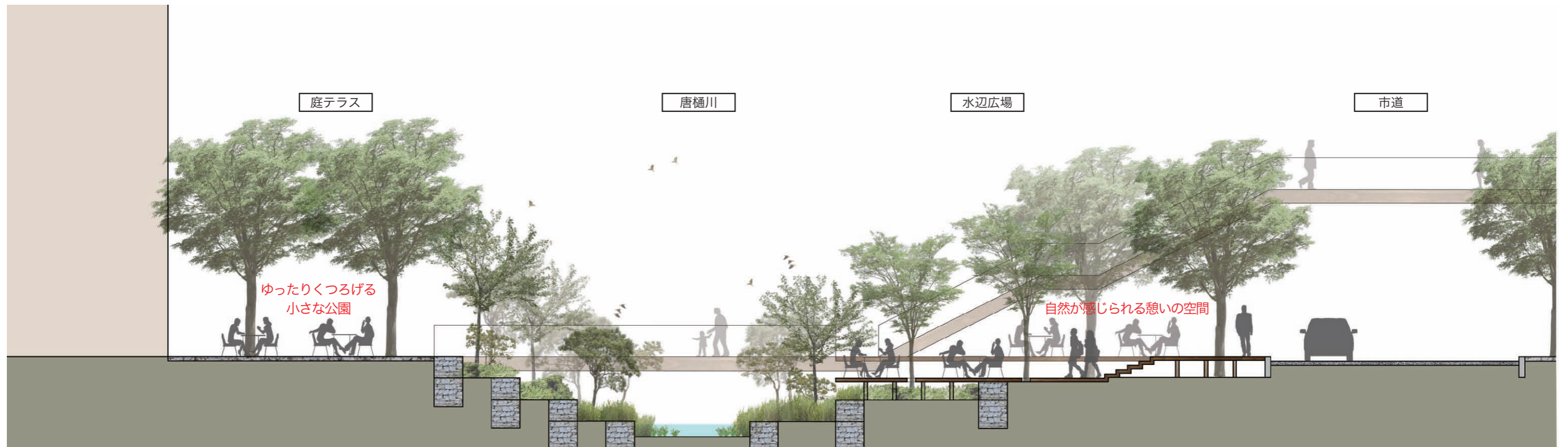


自然の緑

都市の緑



水と緑のネットワーク



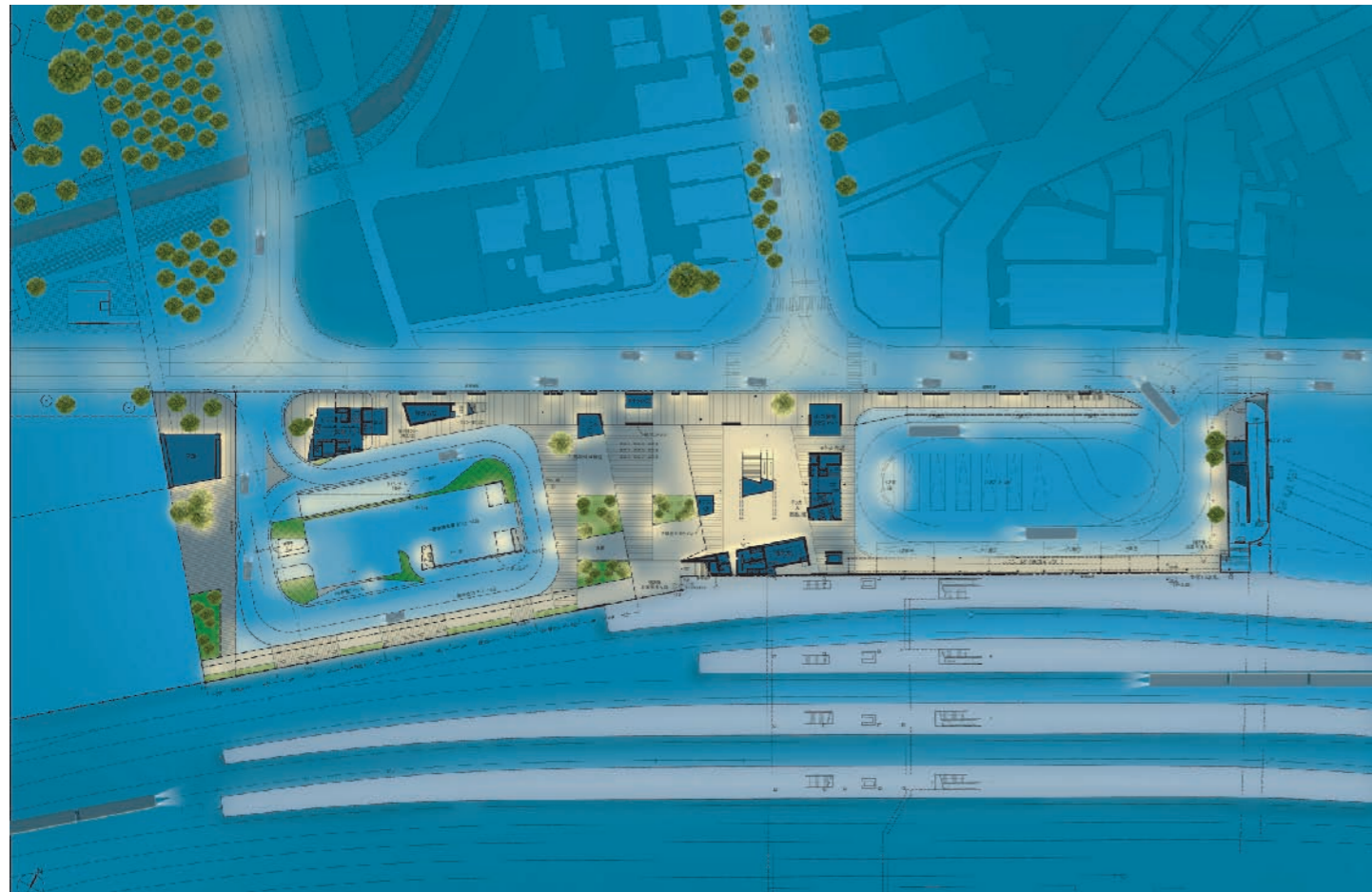
水辺広場断面イメージ



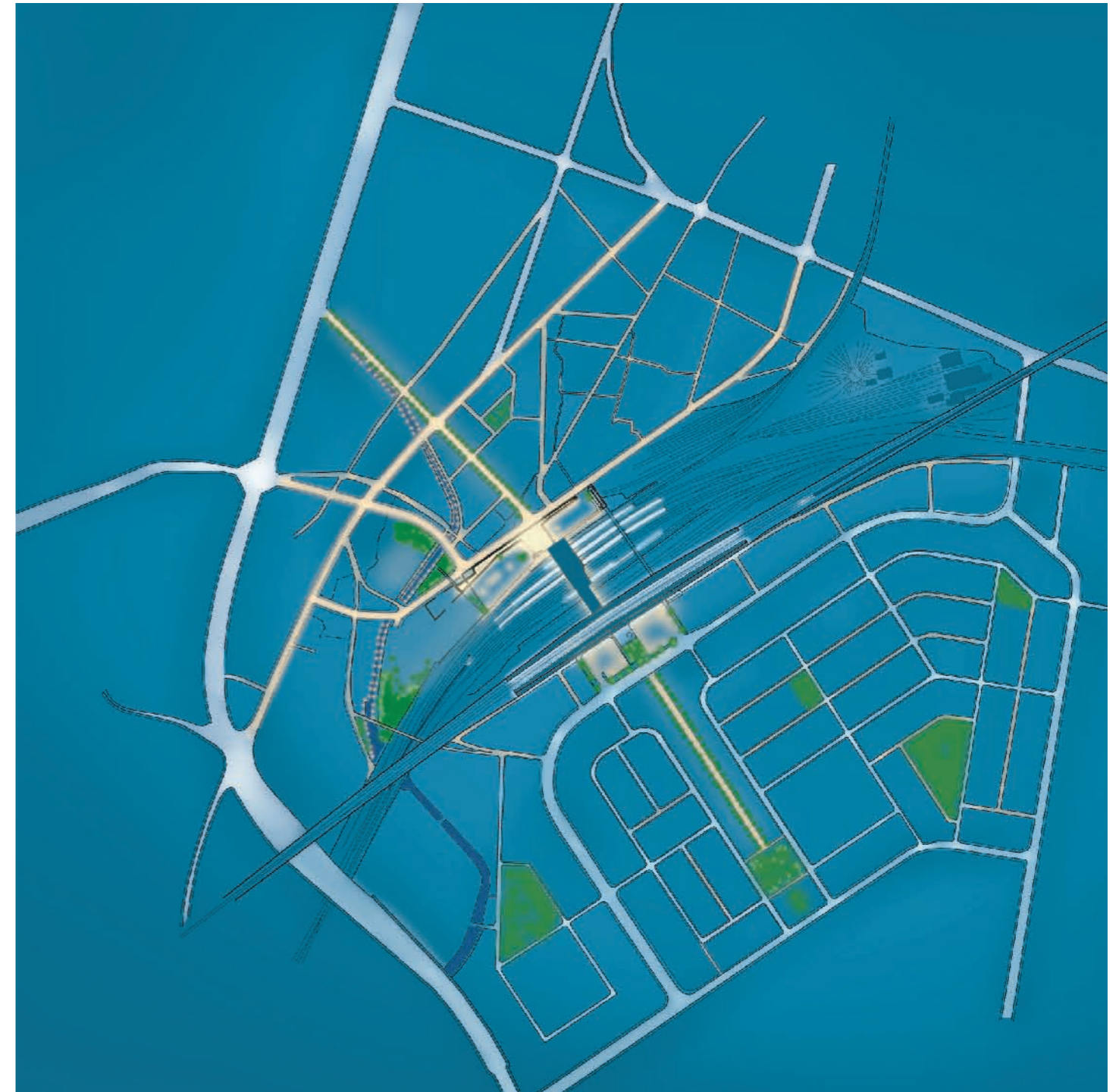
# 光のデザイン

## 広場の光・まちの光 - 光によるまちづくり

人が住まい集うまちにあっては、昼間同様に夜の姿も大切です。ここに暮らす人や訪れてきた人にとって魅力的であり、持続可能な夜間景観をつくりあげていくために、**街の特徴に沿った光によるまちづくり計画**が求められます。



0番線1階平面夜景イメージ図



重点エリア平面夜景イメージ図



イメージ写真。地面から天井に光を照らし上げ、雰囲気を引き立てている。



緑のライトアップイメージ写真



現在の駅周辺（左から表口、新幹線口、重点エリア）



# 景観デザイン

## まちなみを彩るサイン・パブリックアート・ストリートファニチャー

地域全体をひとつのまち並みとしてまとめていくには、個々の施設や場所のデザインだけではなく、そのバックグラウンドとなるアイテムについても、イメージをもってトータルにデザインする必要があります。住む人だけでなく、山口県の玄関口として、訪れる全ての人々にわかりやすく居心地のよい環境づくりが求められます。

### エネルギーサインイメージ

- ・エネルギー学習表示
- ・発電量、消費電量などの情報表示
- ・発電による携帯電話充電スポットや、EV車や燃料電池自動車の充電ステーションの充実



施設の二酸化炭素排出量の表示



EV スタンド

### 街サインイメージ

- ・ソーラーLEDを使用
- ・防災サインの充実
- ・まちなかの観光案内の充実
- ・デジタルサイネージによる情報氾濫の抑止



まちなかの観光案内サイン



まちなかの観光案内サイン



デジタルサイネージ

### ストリートファニチャーイメージ

- ・憩いの場となるファニチャー
- ・建築や植栽と一体的にデザインされたファニチャー



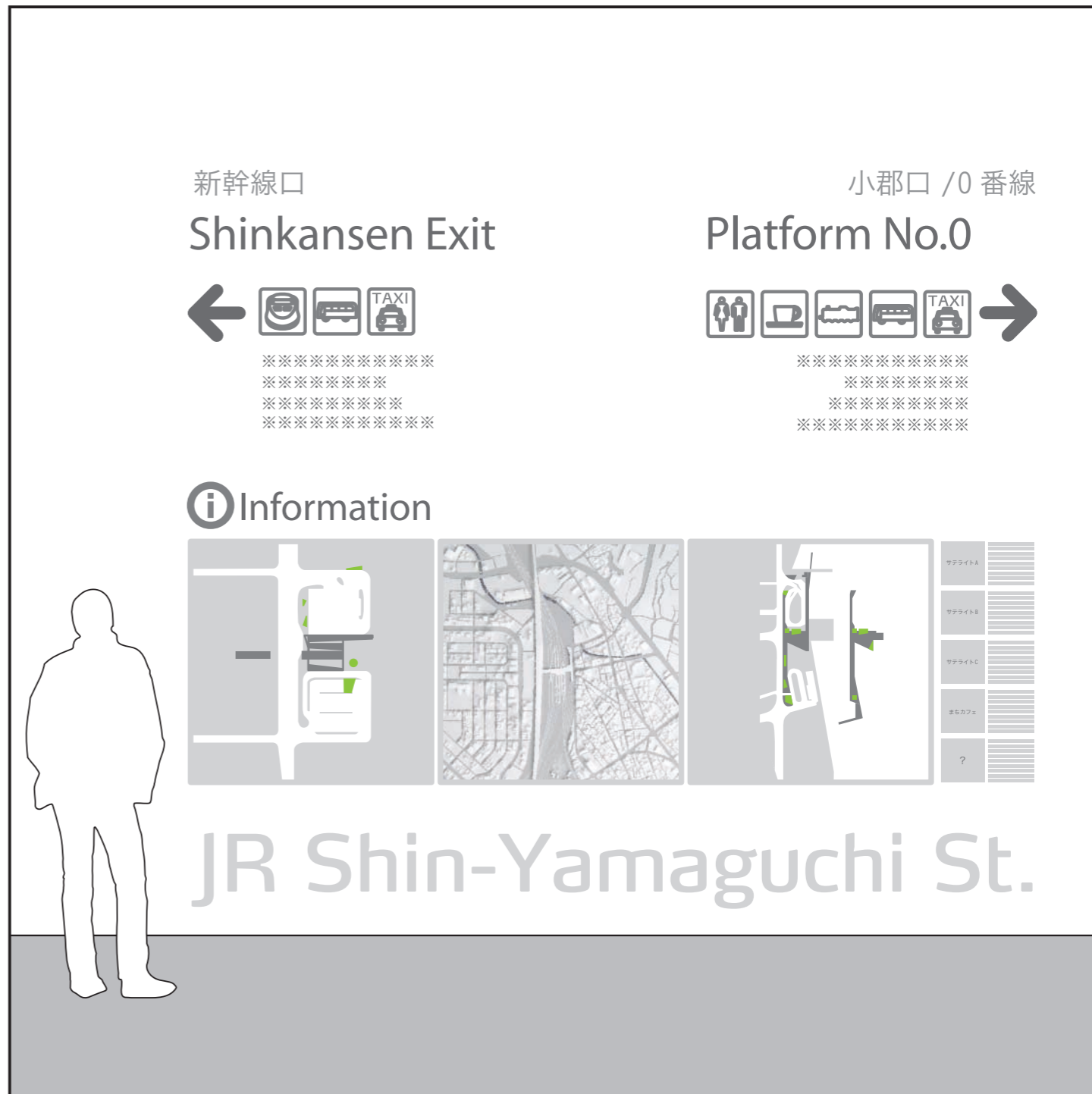
植栽とベンチ



待合スペースのイメージ



デザインされたガードフェンス



サイン・グラフィックイメージ

### パブリックアートイメージ

- ・発電した電力を使用したメディアアートやデジタルパブリックアート
- ・風や太陽光等を利用したアート
- ・施設を利用したアートイベント



風見鶏オブジェ



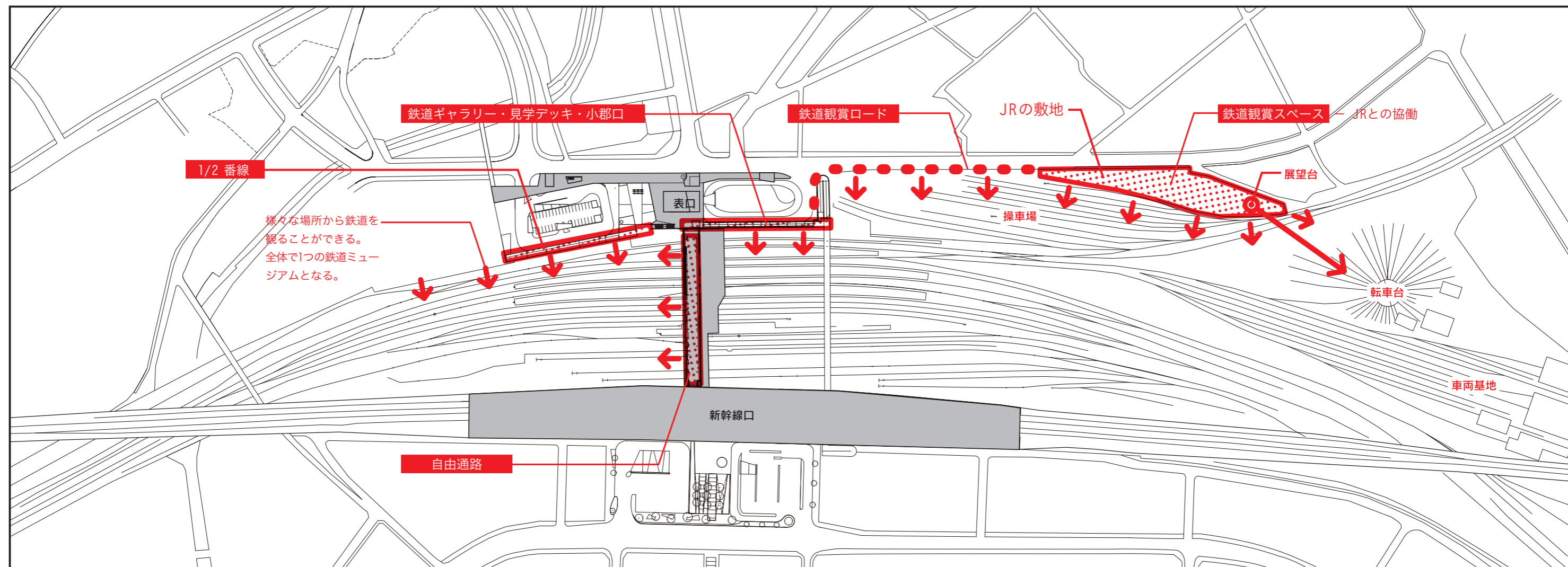
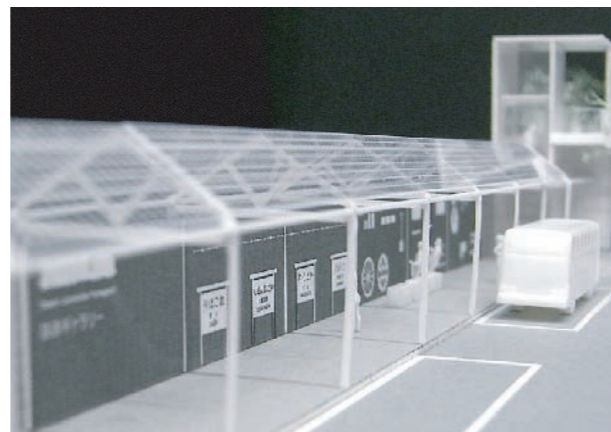
植物の壁



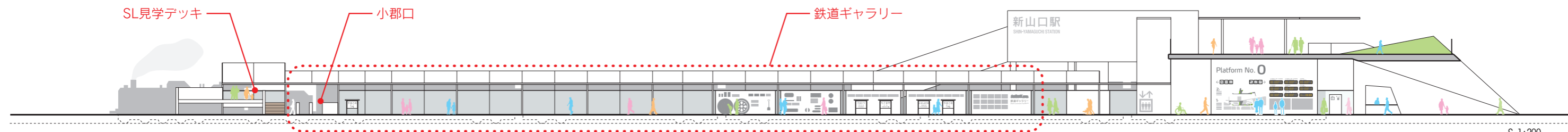
# 鉄道のまち

## まちが鉄道ミュージアム・JRとの協働

過去から現在に至る現在進行形の「鉄道のまち」として整備を進めていくことで、様々な場所からリアルな鉄道展示を観ることができる、まち自体が鉄道ミュージアムとなる事を目指します。「鉄道のまち」というキーワードは、小郡のまちのアイデンティティを形成する重要なコンセプトです。



S=1:1500



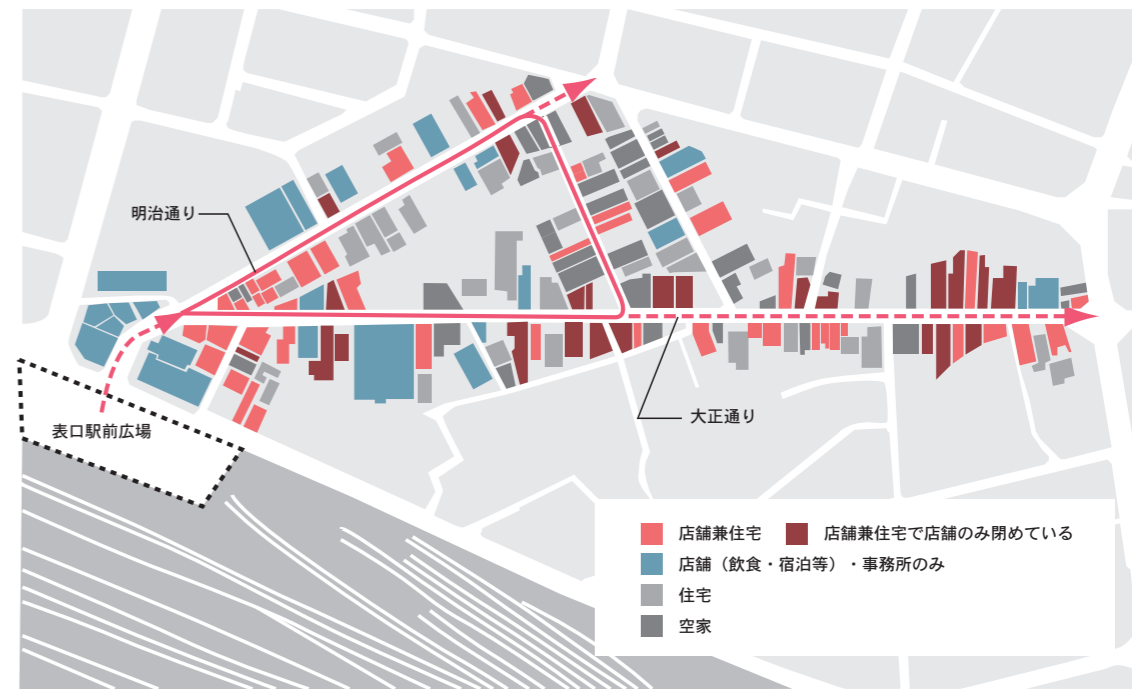
S=1:200



# 旧小郡商店街の再生を目指して

新しさと古さが共存する小郡のまち

かつては賑わいのあった大正通り・明治通りといった商店街も、一階の店舗を閉めた店舗兼用住宅が増えるなど、次第に活気を失っています。一方で、個々の建物を見ていくと、昭和の歴史を感じさせる建物も残っています。これらの特徴と、重点エリアと近接している立地条件を活かしながら、地域の人々が主体となったオリジナルな再生を目指していく必要があります。



大正通りと明治通り沿いの用途分布

←新山口駅



〈大正通り(一部)〉

県道→

大正通りの立面

## 様々な再生のかたち

期間限定の店舗で若者にビジネスチャンス



店の改修案の選定を市民投票で行う



屋台で出会いの街をつくる



大学の「まちなか研究室」による活動





集まる・憩う・交流する・つなぐ・滞留する

情報・観光・文化

くらし・市民活動

自然・エコロジー・防災

鉄道関係

アクセス道路(予定)

サテライト

文化施設のインフォメーション  
県内ブランドのショップ等  
地域の活動が見える場所  
M2F部分を防災倉庫として利用可能

山口情報発信コーナー

山口のすべてがわかる観光案内所etc.

チケット売場 待合

コミュニティスペースとして利用可能

バスの予備バースを追加

木立と緑地に囲まれた地上レベルの広場

0番線

市道中領新山口線

重点エリア

Aゾーンへ

交番

WC

店舗

一般送迎

一般駐車場

バスプール

小郡改札口

SL見学デッキ

小さな東屋を設置

屋根付きの大きな広場

広場のイベントにも利用可能

朝市・フリーマーケットetc.

1/2番線

重点エリアへのアプローチ

ひと休みできるベンチ等も設置 (SL見学スペースとして利用も可能)

1番線

バスシェルター(鉄道ギャラリー)

鉄道の展示スペース

重点エリアへの寄付スペース  
としても利用

次世代エネルギーインフラとしてEV充電ステーションを設置

敷地境界を変更しロータリーを充実



1階平面図





集まる・憩う・交流する・つなぐ・滞留する

情報・観光・文化

くらし・市民活動

自然・エコロジー・防災

鉄道関係

まちカフェ

憩える空間

電車の待ち時間に利用

駅利用者でない人も楽しめる空間

待合上部

駅利用者でない人も楽しめる空間

地域の人々が発表・展示できるスペース

コミュニティスペースとして利用可能

木立の中を抜けるペデストリアンデッキ

朝市などのイベントに利用できるように  
デッキを拡張

将来的にサテライトを設けることも可能

B・Cゾーンへ

0番線

Aゾーンへ

SL見学スペース

1/2番線

重点エリアへのアプローチ

自由通路

インフォメーションの充実 (観光案内etc.)

雨水を活用した植物の壁 (山口の植物園)

自然と人工がうまく融合された場所

緑豊かな空間

2階平面図

0 5 10 20 50[m]